

公共空間における賑わい創出に関する基礎的研究

—東京国際交流館前空間における社会実験を通して—

A Basic Study on the Revitalization of the Public Space

Case Study in Social Experiment of Tokyo International Exchange Center Square

○渡辺和幾¹, 天野光一², 西山孝樹²

*Kazuki Watanabe¹, Koichi Amano², Takaki Nishiyama²

A social experiment was conducted in a public space in front of the Tokyo International Exchange Center in Koto-ku Tokyo. In addition, participants in the social experiment conducted a questionnaire to evaluate of chairs and tables placed in public spaces. As a result, it was clarified that the use as a resting place is effective for creating the bustle of public spaces, and that playground equipment such as quoits is also effective.

1. はじめに

本研究では、2001（平成13）年7月に開村した東京都臨海副都心開発地域を対象とした。そして、大学村とウエストプロムナードとの境界である東京国際交流館前の公共空間に注目した。公共空間の賑わい創出を目的とし、テーブル・ベンチに加えてキッチンカーを配置した社会実験を行った。公共空間における行動特性、着座の傾向等を調査した。

2. 研究方法

2020（令和2）年9月19日（土）・20日（日）の2日間にわたり、東京国際交流館前の空間において、椅子・テーブルキッチンカー等をFigure.1のように配置した。そして、定点カメラによる被験者の行動特性を把握するとともに、社会実験の各種装置を利用した被験者にアンケート調査を実施した。

本稿では、第一段階として社会実験を実施した2日間で、27組からアンケートの回答が得られたため、それらを集計したうえで考察を行った。

3. 社会実験で実施したアンケート集計結果

(1) 来訪目的

社会実験を実施した東京都江東区青海周辺を訪れた目的は、アンケートを実施した27組のうち、「散策」が10組と最も多く、「観光」が8組、「ショッピング」が6組と続いた（Figure.2）。社会実験を実施した周辺に居住する住民、お台場の商業施設やレジャー施設を訪れた観光客双方の利用がみられた。また、周辺のオフィスで勤務されている方がキッチンカーでテイクアウトをし、社会実験で設置したベンチで昼食を取る姿も少ないながらもみられた。

(2) 時間別利用者組数

社会実験を実施した際の時間別利用者組数は

1：日大理工・学部・まち 2：日大理工・教員・まち

(Figure.3), 7組の利用があった12時台が最も多かった。Figure.1に示した社会実験では、キッチンカーを2台配置しており、来場者が昼食を買い求めて周辺の椅子・テーブルを利用して影響が大きいと考えられる。

(3) 着座したグループの構成

2日間の社会実験で利用があった27組のグループ構成をみると、約半数近い13組が子供連れの夫婦であった（Figure.4）。社会実験を実施した東京国際交流館の隣には、日本科学未来館が所在しており、先の施設を訪れる途中に立ち寄ったものと推測される状況にあった。次いで、1名の利用が6組、夫婦・カップルの利用が5組と続いた。

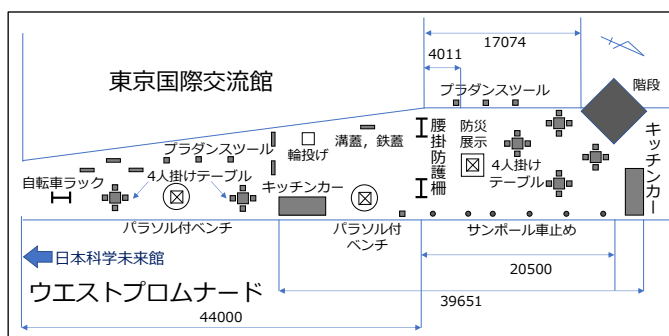


Figure.1 社会実験を実施した現地レイアウト図

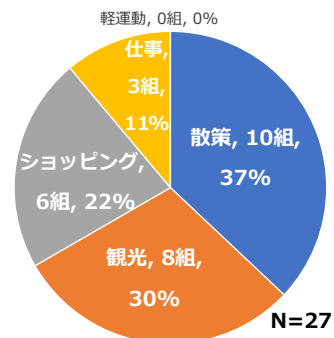


Figure.2 社会実験を訪れた被験者の来訪目的

(4) 椅子・テーブルの着座傾向

社会実験において、Figure. 5 に示した4人掛けテーブルとパラソル付きベンチには着座したが、プラダンスツールは2日間を通して利用者はいなかった。

そのプラダンスツールは一人がけであり、最も利用者が多かった子供連れ夫婦には利用しにくく、キッチンカーでテイクアウトした商品を置くことができなかつたことも影響したと考えられる (Figure. 1)。

(5) 椅子テーブルの利用者による感性的評価

Table. 1 および Table. 2 に示した自由記述により、アンケートに回答した被験者に対して、着座した4人掛けテーブルとパラソル付きベンチの評価を問うた。その結果、利用者は椅子やテーブルの心地よさを重視していることがわかった。

4人掛けテーブルは、キッチンカーで購入した飲食物を子供連れの家族で利用するが多かった。テーブルの表面は、滑らかに加工されており、子供が誤って飲食物をこぼした場合も安心して利用できることがアンケート結果からわかった。その一方、1件ではあったが、テーブルにこぼした実体験により、テーブルの溝に液体が入り込んで「汚れそう」と回答したものもみられた。

パラソル付きベンチの着座部分は、木材で作成されており、その材質が最も評価された。また、飲食だけではなく、休憩のために利用した被験者も多かった。コロナ禍に実施した社会実験ということもあり、3密を避けて利用した回答も見受けられた。

(6) アンケート以外からみえた社会実験の特徴

社会実験では輪投げコーナーを設営し、2日間で24組の利用があった。そのうち22組は小さな子供が参加した。子供が遊んでいる間に、保護者が周辺の椅子で休憩する様子も見て取れた (Figure. 1)。

4. まとめ

本研究では、社会実験を通して、賑わいの創出と公共空間に配置する椅子・テーブルの質に関する評価をアンケートから明らかにした。

飲食を伴う場合は、椅子のみの利用は行われず、テーブルと共に使用されていた。椅子・テーブルの安全性はもちろんのこと、その材質や快適性も求められていた。さらに、公共空間の賑わい創出には周辺環境を理解すること、キッチンカーなど休憩エリアとしての活用に加え、輪投げなどの装置も有効であることが社会実験を通してみえてきた。

今後は、定点カメラの映像を分析し、社会実験に参加した被験者の行動特性を分析していきたい。

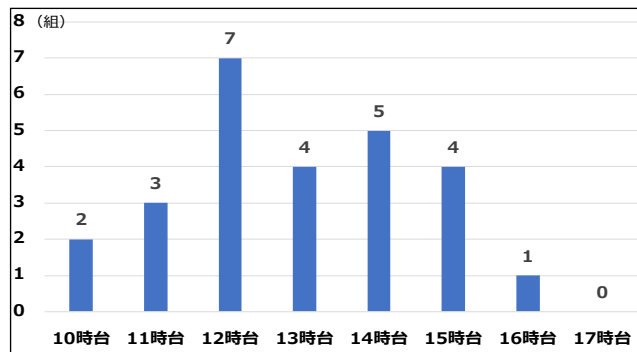


Figure. 3 社会実験に訪れた被験者の時間別利用者

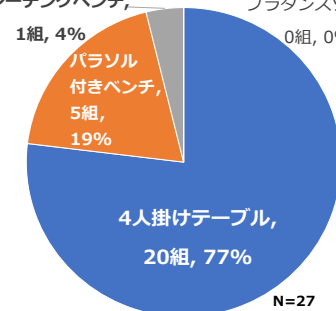


Figure. 4 社会実験において着座したグループの構成

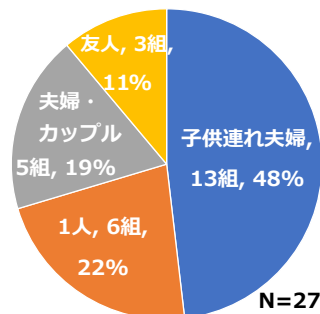


Figure. 5 社会実験に訪れた被験者のグループ構成

Table. 1 4人掛けテーブルの感性的評価

Q テーブル等を利用してみて感じたことは？		
回答	回答理由	
肌触りが良い (5組)	表面が滑らかでツルツル、手触りが良い	
普通 (4組)	使い心地は普通だが、何をしている空間 (社会実験を指す) なのか気になった	
掃除しやすそう (2組)	面がツルツルしてるから	
頑丈 (2組)	製品がしっかりしている	
色合いが良い (1組)	木の雰囲気、色が明るい	
危なそう (2組)	体重をかけたときガタガタする	
汚れそう (2組)	溝に汚れがたまる、木の裏が少しべた付く	
未回答 (8組)		

Table. 2 パラソル付きベンチの感性的評価

Q テーブル等を利用してみて感じたことは？		
回答	回答理由	
良い (3組)	肌触り、木特融のザラザラがなく座り心地が良い	
安心する (2組)	子供が座って安全な高さ、密にならない	
普通 (1組)	使い心地は普通	
未回答 (1組)		

参考文献

[1] 遠矢晃徳・嘉名光市・蕭閑偉：公共空間における利用者アクティビティの通年変化に関する研究～「グランフロント大阪北館西側歩道空間における座具設置社会実験」を対象として～、都市計画論文集, Vol.54, No.3, pp. 375-382, 2019.